

至誠と献身、純愛の人

「江崎邦助巡査」とその妻「じゅう」

田原市立衣笠小学校 立花 英夫



江崎邦助巡査

衛生知識の乏しかった人々は、大挙して石を投げたり竹やりで脅したりするなど激しく抵抗し、「ただちに出ていけ」と迫りました。

人々は、コレラにかかったことがわかると「蔓延を恐れて毒を飲まされる」「息を引き取らないうちに棺桶に入れて焼き殺される」といったデマを信じていました。結果、江崎巡査たちを村へなかなか入れさせなかったというわけです。生命の危険も感じられるほどの状況下であって、江崎巡査は自己の危険を顧みず誠意をもって患者や家族、近所の人たちに消毒がいかに必要なことなのかを、情理を尽くして懇々と伝え続けました。頑として応じることのなかった一同も、若い江崎巡査の三日間にもわたる誠心誠意からの熱情に動かされて、消毒の実施をついに承諾したのでした。江崎巡査たちは村の中に入り、夜も眠らず働き続けました。消毒も一段落した22日、江崎巡査たちは報告のために田原分署へ戻ることになりました。途中赤羽根村若見地区（現在の田原市若見町）付近にさしかかったところで、にわかに激しい吐き気を起こし、自力での歩行も困難になりました。運よく近くにいた人力車に乗り、帰りを急ぎました。苦痛に耐えて加治村稲場（現在の田原市加治町・衣笠小

「あなたは田原の人たちが本当に大切なのですね…。ここ田原は邦助さんにとつて、もう一つの故郷なんですね。ああ、夕日の向こうに、あなたのふるさと鳥羽が見えますよ」



劇「江崎巡査物語」 妻じゅう 独白シーン

衣笠小学校では開校2年目（1906年）の学芸会での初演に端を発し、開校10周年目からは毎年、学校劇として子供たちが江崎巡査夫妻のことを30年近く演じ続けてきています。田原の人とまちを愛し、至誠と献身、純愛に生きた、その遺徳を子供たちに伝えていきます。

江崎邦助巡査は、文久元年（1861年）三重県答志郡鳥羽村（現鳥羽市）で生まれ、明治17年（1884年）に愛知県巡査となりました。その明るくて素直な性格そのままに職務一筋に生き、同僚や周囲の人々から愛されたといえます。明治19年24才の時、愛知県額田郡桑谷村（現岡崎市額田町）出身の上司の紹介で、平岩じゅうさん（当時18才）と結婚しました。その後、豊

学校校区内）まで戻りましたが、病状はさらに悪化、激しい嘔吐に車上にいることさえ、ままならなくなりました。コレラにかかったことを自覚した江崎巡査は、人通りの多い県道を避け、60メートルほど離れた人家のない林の中に入り車を降りると、車夫に田原分署と田原役場への連絡を依頼しました。

その日午後、連絡を聞きつけた分署の上司・同僚、役場の人、妻のじゅうさんたちがかけつけ看護にあたりました。その夜、真性コレラと診断され、田原への移送と治療看護の指示が出ました。ところが、江崎巡査は「私はとても助かる見込みはありません。田原の街へ行っても伝染病院の施設もなく、街のことで家屋も密集していますから、すぐに大勢の人に伝染させ、大変なことになるでしょう。また街へ入るだけで



江崎巡査の行動

町民は不安と恐怖にかられて混乱することでしょう。私は国民の保護と公共の福祉にあたる警察官です。職務に斃れるのは覚悟の上です。ここから先には参りません」と、頑として田原入りを承知しませんでした。松林に臨時の掘立小屋を建ててもらい、そこに留まることとなりました。人家も遠く、狐や狸が出没するようなところで「私だとえ死んだとしても夫のそばを離れることは決してできません」と言っ、じゅうさんは決死の覚悟で夫の看護を始めました。

じゅうさんの不眠不休の看護の甲斐もなく、翌23日午後、コレラのため、25才の若さで江崎巡査は息を引き取りました。時に梅雨は山野に降り注ぎ、その悲嘆の涙も乾かぬうちに、じゅうさんも感染し、倒れてしまったといえます。夫の遺志を守り田原の我が家へ帰ろうとせず、激しく苦しんだ末に、26日午後、同じ小屋でなくなりました。渾美半島を走る山々の彼方に落ちようとする夕陽とともに夫の後を追うかのようなあったと記録に残ります。時に19才でした。（※ここが先述の劇の最終場面に当たる）この若い夫妻の清く献身的な生涯と悲劇的な最期に、住民はみな涙を惜しまなかったと、これも記録に残っています。

二人の献身的・犠牲的な働きで、その後、田原からはコレラ患者が一人も出ませんでした。

現在、加治町稲場のコミュニティセンター運動場の傍らに江崎巡査夫妻の殉難の石碑が建っています。また蔵王山権現墓地には夫妻の墓があり、命日の6月23日に毎年追悼法要と墓前祭が行われ続けています。

田原で偉人といえば、修身の教科書にも教材として掲載されるほど著名な「渡辺華山」が挙げられます。田原中部小学校では伝統的に華山劇としてその人となりを子供たちが演じています。田原中部小より分離新設された「衣笠小学校」。開校当時、「華山劇」に並ぶような学校劇の題材はないかと職員で激論したことも記憶しています。開校2年目、愛知県道徳教育研究会、3年目に文部省指定道徳教育研究発表会が開催された折、目玉として採用されたのが、劇「江崎巡査物語」でした。六年の総合单元的な道徳学習の時間を進める中で「江崎巡査の生き方やコレラ、



江崎夫妻のお墓から望む田原の風景

【参考文献リスト】
『江崎巡査夫妻の事蹟』（江崎巡査夫妻遺跡顕彰会 編 1975年）
『田原町史 下巻』（田原町史編纂委員会 田原町教育委員会 1978年）
『コレラと巡査』『愛知県の民話』（日本児童文学者協会 編 借成社 2000年）
アニメ「風よ、風よ」「ほんとうに泣ける話 VOL.15」（永矢洋子 著 ぶんか社 2004年）
『江崎巡査』『もも』ばあちゃんのおはなし（山田もと 著 郷土記録冊子・田原市教育委員会 2005年）